

球雷の目撃報告 (その2)

藤 吉 康 志*

1. はじめに

2007年に、当時大学院生だった南雲信宏君(現所属: 気象庁気象研究所)が札幌の自宅で目撃した「球雷」について報告しました(藤吉・南雲 2007)。その後、国内外の研究者との情報交換はありましたが、記事の最後に呼び掛けた目撃情報の提供は残念ながら皆無でした。ところが、2018年1月に刊行されたナショナルジオグラフィック別冊「今の科学でここまでわかった世界の謎99」に球雷が取り上げられたことをきっかけとして我々の記事を読まれた池 正(いけまさし)氏(承諾を受けて本名)から、以下のような目撃談が届きましたので、その後のやり取りで得た情報も含めて紹介させていただきます。

この目撃例の貴重なところは、高校生以上の男女4名(具体的には、当時17~18歳の弟さん、19~20歳のご本人、48~49歳のお母上、52~53歳のお父上)が同時に、ほぼ1m以内という至近距離で数秒間観察を行ったため、前回の報告よりもさらに具体的に詳細な球雷の描写が得られたという点です。

2. 目撃談(ほぼ原文のまま)

目撃したのは、今から34~35年前のことで私がまだ大学生の頃の話です。たいへん不思議な現象でしたので、その時の状況は今でも鮮明に記憶しております。

当時私(実家)は、神奈川県相模原市緑区相原二丁目[†]の木造一軒家に住んでおりました。時刻は午後8時くらいだったと思います。家族4人で食事を終え、1階ダイニングキッチンにあるテーブルを囲んでテレ

ビを見ておりました。その時近くに落雷がありました。

家族で「今の近かったね!」と話した次の瞬間、私たちの目の前に光る球体が現れたのです。

もう少し正確に描写しますと、テレビを正面から見ていた(第1回参照)第一発見者の父によれば、球体がテレビの後ろの窓に掛かっているカーテンの前に突然現れたそうです。ダブルのカーテンの裏は掃き出し窓のサッシ、その外側はアルミのシャッター雨戸で全て閉じられておりました。その球体は私たちの目の前(テーブル上空)を音もなく通り過ぎ、父の背面となるキッチンの防火のために貼られたステンレスの壁に当たり、パチッという音と共に消滅したのです。消滅した後に少し焦げたような臭いがしましたが、ステンレスに焦げ跡などは残っていませんでした。

私が視認したのはテーブル上空を通過しているところからですが、浮遊している球体の床面からの高さは1m少々(カーテンの前に現れてから斜めに降下して行きましたので、テーブルに至る前はもう少し高い位置、テーブルを過ぎてからはもっと低い位置ということになります)、球体と最も接近した時の距離は40cm程、球体の大きさはピンポン球よりも少し大きい程度で、形はほぼ完全な球でした。

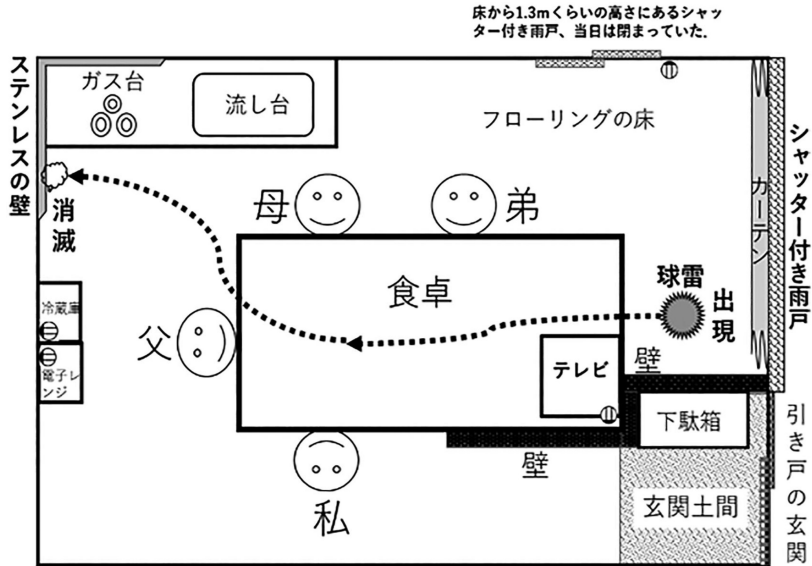
色は青白いという言葉が一番近い表現なのですが、黒いスジのようなものが見えました。もう少し具体的に表現しますと、電氣的にスパークした光が直線的ではなく丸まっているといったイメージですが、表面が滑らかな感じではありません。スパーク状に見える光の基調色は青みがかかった白で球体の内部は黒っぽいのですが、内部の黒が単に透けて見えるというのではな

* Yasushi FUJIYOSHI, 北海道大学名誉教授。

fujiyo@lowtem.hokudai.ac.jp

© 2019 日本気象学会

[†] 現在の住居表示。近くに雷雲が発生しやすい高尾山がある。



第1図 球雷の移動経路と部屋の配置。⓪はコンセント。

く、青白いスパーク状の光と同じように黒っぽくスパークしている筋も見えるとといった感じです（ここは表現が難しい）。青白いスパーク状の筋がメインで、それに黒っぽい筋（比較的はっきりとしたもの）が球体表面で絡み合っているようなイメージです。また、球体内部は黒っぽかったので透けていなかったように思えます。

ステンレスと反応した際に生じた爆発音以外の音は全くしませんでした。

球体が現れてから消えるまでの時間は5～6秒と行ったところで、球体の移動速度は人がゆっくりと歩く程度でした。家族全員の目の前に突然現れ、スーッと音もなく移動して最後は壁に当たって消え、その時その場にいた家族全員が同じものを視認しておりませ

3. 追加情報

以上が最初にいただいたメールの内容ですが、以下は私からの質問とそれに対する回答です。

Q1：熱を感じませんでしたか？

A1. 視認した距離感では、熱は感じませんでした。もちろん球体に触れた訳ではございませんので、球体そのものが熱を帯びていたかは定かではございません。球体は、マスクメロンの網だけを取り出したようなイメージです。その網がものすごく

細かいギザギザとした火花状の網で、網はコンセントがショートした時に出る青白い火花に似ているのですが、細く青白い火花が網状に球体表面を形成しているようでした。ですので、球体表面は燃えているようには見えず、かつ内部はボーッと黒く見えました。

Q2：回転運動は見られませんでしたか？

A2. 表面の青白いギザギザとした火花状の網が動いていたのは記憶していますが、球体そのものがクルクルと回転しているようには私の目には映りませんでした。全く回転していなかったとは断言できませんが、少なくともものすごい勢いでは回転していなかったと思います。

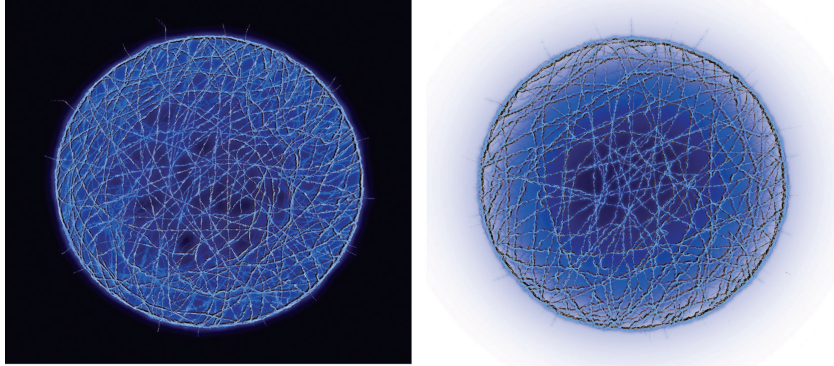
Q3：TVにノイズなどは入りませんでしたか？

A3. 球体に目を奪われてしまい、球体が発生している間のTVのノイズはわかりません。球体が現れる前後においてはTVの受信に影響はありませんでした。

Q4：できれば、カラーのイラストを描いていただけませんか？

A4. 美大出の娘に説明をして書いてもらおうかと思っております。

→後日届いたイラストが第2図です。背景が黒と白の2枚ありますが、背景が黒の方がイメージに近いそうです。



第2図 目撃情報を基に作成した背景色のみを変えた球雷のイラスト図。

Q5：年月日のヒントになりそうな情報はございませんか？

A5. 昔のことでほとんど記憶しておりません。

Q6：ご両親と弟さんから、記憶に残っていることは何でも結構ですので、聞き出していただくことは可能でしょうか？

A6. 残念ながら第一発見者の父は亡くなっております。母は存命ですが、高齢ですので記憶があるかはわかりません。弟は現象自体の記憶はありましたが、球体表面の状況などは私の方が詳しく見ているように思えました。少なくとも、自宅で球体が発生して消滅したこと自体が記憶のすり替えなどではないことは確認できました。

4. おわりに

私に直接球雷の目撃情報を語って下さった道本光一

郎博士（当時防衛大）、南雲君、濱崎札幌管区気象台長（当時）に加えて、その後、北大・低温研の院生（+お母上）も小学校時代に目撃していたことが判明しました。そして今回の池氏を加えて、私の周りに既に合計5名の目撃者が存在します。従って、より組織的に調査収集を行えば、必ず多くの目撃情報が集まることが期待できます。それらの情報を整理・解析することで発生条件を絞り込むことができ、物理的解明（特に多くの目撃情報で共通する黒い筋の正体）も不可能では無いと考えています。本誌読者による目撃情報の発掘と提供を強く期待しています。

参考文献

藤吉康志，南雲信宏，2007：球雷の目撃報告．天気，54，91-92.